慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	伝本一覧および『錦繍段』との関係について：『新選集』『新編集』研究その四
Sub Title	An outline of existing manuscripts and their relationship to Kinshudan : a study of Shinsen-shu and Shimpen-shu part4
Author	堀川, 貴司(Horikawa, Takashi)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	2013
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.48 (2013.) ,p.119- 143
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	山城喜憲元教授退職記念#挿表
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20130000-0119

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

伝本一覧および『錦繡段』との関係について

―『新選集』『新編集』研究その四―

堀川貴司

はじめに

これまで『新選集』『新編集』の本文提供を目的として、それぞれの最善本と目される伝本を底本として翻刻、近しい関係の他伝本により主要な校異を掲げ、底本に収めない作品を補遺として付した（第四五輯その一・第四六輯その二）。ついで大幅な改編・増補本にのみ収める作品の拾遺と、主要伝本の所収作品対照表を作成、両書所収作品の集大成を行った（第四七輯その三）。

本稿では、管見に入った諸伝本の概要を記し、また改めて『錦繡段』所収作品との対照を行いたい。なお、伝本については拙著『詩のかたち・詩のこころ　中世日本漢文学研究』（若草書房、二〇〇六）第一五章においてその時までに調査し得た本の書誌等を記している（＊を付したもの）ので、それらについては原則として概略に留めたが、補訂を兼ねて詳しく記す場合もある。また、配列に関しては「その三」の対照表を併せ御覧頂きたい。

「その三」対照表訂正

＊両足院本28・29の行、内閣本・龍谷本は数字を入れ替える。

＊両足院本936の行、彰考館本は×1039→○1038

＊両足院本929の行、彰考館本は×（空欄）→○1109
＊両足院本924の行、彰考館本は×1109→○1110、以下1183まで数字が1増える。（訂正後は1110～1184）
＊両足院本1119の行、彰考館本は×1198→○1185、以下1253まで数字が13減る。（訂正後は1185～1240）
＊両足院本1050の行、彰考館本は×1184→○1241、以下1197まで数字が57増える。（訂正後は1241～1254）
＊両足院本1154の行、彰考館本は×1254→○1255、以下1301まで数字が1増える。（訂正後は1255～1302）
＊両足院本1174の行、彰考館本は×（空欄）→○1303
＊両足院本1302の行、彰考館本は×1302→○1304、以下末尾まで数字が2増える。（訂正後は1304～1319）

一、『新選集』

管見に入ったのは七本（7の成簀堂文庫蔵本は『新編集』からの増補も含む）、そのうち収録作品数が比較的少ないものを原撰本系統、多いものを増補本系統と名付け、それぞれの内容を検討する。また、書入本と抄出本をそれぞれ一本ずつ、番外として付した。

なお伝本名の末尾に（　）で示した漢字一字をその伝本の略称として使用する。

原撰本系統

1建仁寺両足院蔵本（両）＊（拙著刊行時は原本未見だったため改めて記す）

新選分類集諸家詩巻　和　大　一冊〔室町中期〕写　一六一番箱第三号

後補縹色布目型押卍繋菊唐草艶出表紙（二五・一×一九・二）、外題後補題簽左肩無辺（一〇・四×二・二）墨書「新選集（分類）〈江西〉全」（本文と別筆、〔明治〕写）。

目録「新選分類集／（低二格）綱目／（低一格）天文（隔三格）〈一〉（隔二格）節序（隔三格）〈二〉（隔二格）地理〈三〉／……／雑賦（隔三格）〈十九〉」（数字は薄墨後筆）一丁。巻首「新選分類集諸家詩巻／（低二格）天文／三十六宮秋夜深、……」。無辺無界一二行二一字、字高二一・三。詩本文のあと隔二格にて題、行末より高五格にて作者を記す。本文一〇四丁、

巻尾「新選分類集諸家詩巻終　一千一百八十六首」。

全体に本文同筆かと思われる朱の句点と朱引、墨の返点・送仮名・竪点が付されている。全一一八四首（拙著では一一八三首としたが誤り）。書写年代が古く、他の伝本に比べて書写は正確であること、編者のいた建仁寺に伝来していることから、『新選集』成立時の内容を伝える本として重要である。

龍・内と比較して四〇首ほど作品数が多い。三本お互いに出入りはあるが、この数の差は、本伝本独自の増補を窺わせる。そこで、**両**にあって**龍・内**にない作品を拾っていくと二三首あり、そのうち実に一九首に作者名が記されていなかった。後に増補された時、不完全な資料（作者名を記していない抄出本など）から行ったか。

もちろん、成立当初からそのような形で記されていて、転写の際、そのことを嫌った書写者が意図的に省いたという可能性もあるが、他本すべてにないものがほとんどであり、やはり独自増補と見るべきか。少なくとも収録作品の異同と作者名表記の有無との間に強い関係があることは確かである。

2 龍谷大学図書館蔵本（龍）＊

天文九年（一五四〇）写。一冊。全一一四一首。両に次いで書写年代が古いと思われる。『新編集』龍谷大学図書館蔵本（**龍編**）と同時期に写されたもの。第一九丁が誤って**龍編**に竄入している。

両・内と比較すると、本書にしかない作品はわずかに一首（747）であり、独自増補はしていないと見てよいだろう。逆に**両・内**にあって本書にない作品は一一首なので、これらは書写の際に省かれたかもしれない。とはいえ、全体として底本を比較的忠実に書写したものと見られる。同時の書写である**龍編**が大幅な抄出・改編本であるのとは対照的で、本伝本書写者またはその底本書写者に『新選集』を主、『新編集』を従と見る意識があったか。

配列に関しては、行旅付従軍のところで、**両**456～468が本書では420・419・446・445・444・443・442・437・438・439・440・441・448となっているところが唯一の大幅な異同である。内容的にはどちらがよいとも判断が付きかねるところであるが、**内・彰**も**両**と配列が一致するので、本書独自の乱れと判断しておく。なお、後述する『錦繡段』はこの部分から採録していない。

3国立公文書館内閣文庫蔵本（内）＊

〔江戸初期〕写。一冊。全一一三七首。林羅山旧蔵。同題・同作者の作品が複数収められている場合、一首のみ残して他を省略していることがあり、逆に各部門末尾に数首ずつの独自増補を行っているところがある。したがって**両**と比較すると、**龍**・**両**間よりも出入りが激しい。より多様な題の作品を収めようという意識が働いていると考えられる。

また、**両**と配列が大きく異なる箇所が四つある。それぞれ検討してみよう。

ア**両**344～356（簡寄付贈答）にあたる部分が**両**369の後に入っている。**両**356と357が韋応物「寄諸弟」という同題・同作者の二首で、**内**だとこれらが離れ離れになってしまうため、明らかに**両**が正しい。

イ**両**812～821（鳥獣）にあたる部分が**両**862のあと、部門末尾に入っている。

この一〇首は虫や魚を詠んだもので、その前後が鳥を詠んだ詩であるのと明らかに異質であり、**両**の誤りである。なお**龍**も**両**と同様に誤っている。

ウ**両**953～961（画図）にあたる部分が**両**988のあと、部門末尾に入っている。

ここは「墨梅」題が952から962まで連続する部分なので、**両**が正しい。

エ**両**1079～1085（雑賦）にあたる部分が、**両**1184のあと、部門末尾に入っている。

明確ではないが、題の類似からすると**内**が正しいか。

以上四箇所、**両**・**内**それぞれ正しいと思われる所が二箇所ずつに分かれた。なお**龍**は四箇所すべて**両**と一致しており、近似性が強いことがわかる。

4無窮会図書館天淵文庫蔵本（天）

新選分類集諸家詩巻　和　大　一冊　〔近代〕写　第九門一八七一

原装代赭色布目地松皮（不定形）型押表紙（二七・二×一九・六）、外題後補カ題簽飾り枠（刷）内墨書「新選分類諸家詩集」、五つ目綴、本文料紙はパルプと楮の交漉か、純白平滑なもの。

前遊紙一丁に続き、目録一丁あり。巻首「新選分類集諸家詩巻／（低一格）天文／三十六宮……」。無辺無界一四行一〇字、字高二一・三。詩本文のあと隔一格にて題、行末より高四格に

て作者を記す。本文八五丁、途中第三八丁が白紙のため墨付は八四丁。この白紙の前後で書写者が変わり、全二筆。尾題なし、後遊紙一丁。

本文は白文で、朱の傍線を引いて、上欄に注記を行う。多くは誤写や異体字を正すものであるが、底本の誤写等の指摘もあり、校合の参考になる。

印記「桂嵒／藏書」（朱陽方二・八×二・七、目首）「臨池堂文庫卅六」（朱陽無辺スタンプ、五・一×〇・七、目首および巻首）「臨池堂文庫」（朱陽長方、六・六×一・六、巻首）「臨池堂叢書稿本卅六」（朱陽無辺スタンプ、一六・六×〇・七、巻首）「鵜坂榮太郎」（青インク長方無辺スタンプ、六・二×〇・七、巻尾）。いずれも所用者は鵜坂榮太郎と思われる。天淵文庫には同氏編『臨池堂叢書』六四点が収蔵され、主として近世の漢詩文集や歴史書などが集められている。新しいものでは大正七年文部省が制定した『漢字整理案　略字案』などというものもある。国立国会図書館サーチによると同名の叢書の分かれ、『荘保考証　越中国』（清水正健の著作の抄出、昭和四年鵜坂榮太郎写）が富山県立図書館にある。

本書は同文庫蔵『新編集』と一具のもので、本文・写式等、**内**の忠実な転写本である。

5前田育徳会尊経閣文庫蔵本（尊）＊

大正七年（一九一八）写。二冊。**尊編**末に**内**を写した旨の奥書（永山近彰）がある。

増補本系統

6徳川ミュージアム彰考館文庫蔵本（彰）（原本閲覧禁止のためマイクロフィルムによる）

新選分類集諸家詩巻二巻　和　大　二冊　〔江戸前期〕写　辰一（〇六一九五～六）

色文様不明表紙（二八・二×二〇・〇程度か）、外題左肩双辺（刷か）内墨書「新撰分類集諸家詩」。

目録「新選分類集諸家詩巻上／（低一格）天文（隔二格）節序（隔二格）地理（隔二格）寺観／……／（低一三格）下／哀傷……」一丁あり。巻首「新選分類集諸家詩巻上／（低一格）天文／（低二格）禁中月（隔三格）杜牧之／三十六宮……」。無辺無界八行一六字、字高二〇・二程度か。低二格にて題、行末より高八格にて作者を記す（ただし題が六文字以上の場合は

改行して記す）。詩本文は一行二句分かち書き、句と句の間は隔二格。全巻一筆、一部に返点・送仮名・竪点あり。尾題上巻「新選分類集諸家詩巻上終」下巻「新選分類集諸家詩巻畢」。上巻一二八丁、下巻一三〇丁。

下巻裏見返に「呂雒陽書賈林白水之本謄録」とある。林白水とは、江戸前期から近代まで続いた本屋出雲寺和泉掾の初代林時元が寛文三・四年（一六六三・四）頃隠居した後の名で、林鵞峰の『国史館日録』にしばしば名前が見える。水戸徳川家とも取引があり、『大日本史』編纂のための資料収集に協力していた[1]。本書もそのなかで書写された一本であったろう。印記「彰考館」（朱カ陽瓢簞形、五・五×三・三程度か、各冊首）。

両・龍・内がいずれも作品本文の後に題と作者を記す形式なのに対して、本書は題・作者・作品本文の順である点に、漢詩集の写本における中世から近世への写式の変化を見て取ることができよう。

各部門の収録作品数は次の通り。参考までに**両**の作品数も（　）内に掲げる。

天文	1～48	四八首	（三三首）
節序	49～145	九七首	（九七首）
地理	146～148	三首	（四首）
寺観	149～176	二八首	（二七首）
懐古	177～356	一八〇首	（一五二首）
人品	357～381	二五首	（二四首）
簡寄	382～438	五七首	（五七首）
尋訪	439～448	一〇首	（一一首）
送別	449～485	三七首	（四〇首）
行旅	486～537	五二首	（五七首）
遊覧	538～599	六二首	（六二首）
閨情	600～651	五二首	（五〇首）
哀傷	652～660	九首	（九首）
器用	661～691	三一首	（三一首）
食服	692～705	一四首	（一四首）
草木	706～871	一六六首	（一二〇首）
鳥獣	872～963	九二首	（七四首）
画図	964～1115	一五二首	（一二七首）
雑賦	1115～1319	二〇四首	（一九五首）

大幅な増補はまんべんなく行われているわけではない。多いのは天文・懐古・草木・鳥獣・画図・雑賦で、もともと数の多

い部門が中心だが、取材源や増補者の好みなどにも関係があろうか。

逆に送別・行旅などはむしろ本伝本のほうが少ない。そういう部門はむしろ**両**において小規模な増補が行われる以前の形を伝えている可能性もある。

配列に関しては、細かな異同はあるものの、最後の雑賦を除けばほぼ**両**と一致する。また、**両**・**内**間で大きな異同があった四箇所は、ア・ウが**両**と、イ・エが**内**と、すなわちすべて正しいと判断した方と一致する。

以上の二点は、増補部分を除去してしまえば、むしろ**両**・**内**・**龍**よりも原型を保存している可能性が高いことを示すものではなかろうか。書写年代は下るものの、注目すべき伝本であることは確かであろう。

なお、雑賦に関しては、つぎの**成**とともに**両**以下三本と大きく異なる配列を示している。数首あるいは一〇首前後のまとまりでの異同は、どこかの段階での乱丁が可能性として想定されるが、**両** 1016・1018・1019・1024・1029・1030・1055・1062・1077・1078・1087・1104・1124・1139・1141・1142・1146・1152・1162・1180という、特に何らかのまとまりがあるようには思えない作品を抜き出し、まとめて後方に配置しているのは、理由は不明ながら意図的なものであろう。雑賦というまさに雑多な内容の部門だからこそ、このような大きな異同が起きやすいのかもしれないが、『新選集』『新編集』が常に状態を変化させつつ書写されていく性質を持つ書物であることを示す一例とも言える。

7お茶の水図書館成簣堂文庫蔵本（成）＊

〔室町後期〕写。一冊。全八四三首。京都南禅寺の禅僧最岳元良（？―一六五七）旧蔵。草木・鳥獣・図画・雑賦の四部門のみの零本なので、これらの部分でしか比較できないが、対照表からわかるように、**彰**とは増補部分も含め、内容・配列ともほぼ完全に一致する。非常に近しい関係にある伝本を用いたと考えられる。なお、拙著では一部に他部門からの挿入があることから、四部門で完本の可能性もあると記したが、これも**彰**と一致するので、やはり**彰**と同系統の零本と見るべきであろう。

本書はさらに『新編集』からの抄出を各所に挿入していて、これも**龍**（および**龍内**）同様、『新選集』を主、『新編集』を従とする考え方に基づいた再編集だと言えよう。

写式は低二格にて題、低二三格にて作者、改行して詩本文を

一首一行にて記すという、**両・龍・内**とは異なるものである。

番外ア『千家詩選』書入

住吉朋彦「『千家詩選』と『新選集』―国清寺旧蔵本をめぐって―」（『斯道文庫論集』四五、二〇一一・二）で紹介された、北京大学図書館と斯道文庫に分蔵されている宋・劉克荘編とされる『分門纂類唐宋時賢千家詩選』（二十巻および後集十巻、周防国清寺旧蔵）に書き入れられた二六三首は、氏の調査によれば、うち二五六首が原撰本系統『新選集』に、他に二首（193・199）が『新編集』、一首（151）が増補本系統『新選集』にそれぞれ収められ、一首（200）がいずれとも一致しない（他に出典を明記するもの二首、別筆の一首を除く）。

本書の場合は、『新選集』『新編集』ともに『千家詩選』を取材源としているため、逆に両書から『千家詩選』以外の作品を書き入れて参考としたものである。ほとんどが原撰本系統の『新選集』からなので、一種の抄出本として、本文研究等に活用できる。

番外イ堀川架蔵抄出本

堀川貴司「新選分類集諸家詩（抄出本）　解題と翻刻」（『花園大学国際禅学研究所論叢』二、二〇〇七・三、のち訂正を加え堀川貴司『五山文学研究　資料と論考』笠間書院、二〇一一、に収録）で紹介したもの。天文・節序・地理・寺観・懐古・人品の冒頭六部門、計七八首のみの抄出本ながら、『錦繡段』と七三首が一致する注目すべき伝本で、あるいは『錦繡段』編纂過程を示すものという可能性もある。

二、『新編集』

伝本は『新選集』に比べ五本と少ない。収録作品数が大幅に少なく、配列にも手を加えている龍谷大学図書館蔵本のみを改編本系統として別立てにした。

原撰本系統

8慶應義塾図書館蔵本（慶）

文明六年（一四七四）写。全一二七八首。石川丈山・福井崇蘭館旧蔵。書写年代は古いが、やや書写の正確さには欠けるところがある（書誌については「その二」参照）。

各部門の収録作品数は次の通り。参考までに**内編**の作品数も

（　）内に掲げる。

天文	1～25	二五首	（二五首）
節序	26～125	一〇〇首	（九三首）
地理	126～156	三一首	（三一首）
草木	157～261	一〇五首	（一〇四首）
禽獣	262～304	四三首	（四三首）
宮省	305～319	一五首	（一五首）
屋室	320～357	三八首	（三八首）
懐古	358～481	一二四首	（一二二首）
儒学	482～527	四六首	（四七首）
僊道	528～541	二四首	（二四首）
釈教	542～575	三四首	（三四首）
武用	576～594	一九首	（一九首）
雑職	595～611	一七首	（一七首）
人事	612～626	一五首	（一五首）
簡寄	627～698	七二首	（七一首）
訪尋	699～713	一五首	（一五首）
送別	714～748	三五首	（三五首）
行旅	749～804	五六首	（五六首）
遊覧	805～856	五二首	（五四首）
閨情	857～917	六一首	（六二首）
哀傷	918～933	一六首	（一六首）
図画	934～1035	一〇二首	（一〇一首）
器用	1036～1075	四〇首（ただし1036は319と重複）	（三九首）
食服	1076～1116	四一首	（四二首）
雑賦	1117～1278	一六二首	（一六一首）

巻尾題のあとに同筆にて薩摩大願寺関係の記述が一丁半続く。句読点を補い、適宜改行して以下に掲げる。

扶桑国薩摩州黄龍山大願禅寺僧堂前鐘銘〈并序〉

夫鐘之於堂、不可一日無之。本寺乃位列諸山、薬師如来霊地、而一関和尚創業也。其徒甲乙住持焉。雖然二十年来無斯器者、何乎。茲者中庵老人発大願心、範金造鐘、朝夕考撞、法儀粛如也。住持比丘栄玖、欲託文字不泯其事、乃為之銘。々曰、

鐘之在堂　道之行身　大同而配　嘉声日新　人克成鐘　鐘克成人　朝考夕扣　緇侶詵々　医王宝所　白山降神関翁行蹟　黄龍起鱗　梵音雷動　禅影月輪　声容可視禮岳云頻

靡物不被　抜苦息辛　心聞々尽　覚悟大因檀信延久　寺門
斉椿　皇図千秋　仏化万春
　旹応永龍集庚子孟夏結制日　住衲瑩中謹題
薩摩国祁答院郡山黄龍山大願禅寺〈馬立原／十境〉
医王宝殿〈仏殿／額〉三関堂〈方丈／額〉雨華堂〈法堂／額〉選仏閣〈僧堂／ー〉水月楼〈山門／ー〉香積軒〈庫裡／ー〉
万松林〈□〉二水渡〈前河〉天香亭　甘露泉〈中河〉
　潜龍潭〈洞口〉白虎嶺〈古城〉落水橋　夜星河
紹光院〈本開／山塔〉紹興院〈准開／山塔〉富景庵〈雪堂／塔頭〉同光庵〈龍川ーー〉泰龍院〈在室／ーー〉瑞光院〈松岩／ーー〉清住庵〈中庵寮舎〉蓬壺嶋
鎮守　伊勢　熊野　白山　三社也
開基檀那ハ　行祖〈法名／三浦歟〉〈名憲　重実〉
公重代ニ諸山御教書下也。是ハ渋谷。

鐘銘は応永二七年（一四二〇）に当時の住持瑩中昌玖が撰したものである。序文中「住持比丘栄玖」とあるが、瑩中の師は初代住持起宗宗胄なので、あるいはもともと「宗玖」であった法諱を誤写したものか。

後半は、伽藍の名称、十境（冒頭の「馬立原」と塔頭末尾の「蓬壺嶋」とを入れて十になる）、塔頭、鎮守を列挙し、最後に開基についての記述がある。従来は祁答院（渋谷）公重が開基とされていた（『日本歴史地名体系』鹿児島県「大願寺跡」）ので、異伝であろうか。

大願寺は永和三年（一三七七）諸山に列し、翌年、臨済宗黄龍派の天祥一麟が住持に任ぜられ、翌々年赴任した。十境も彼の考案によるものである。起宗も瑩中も同派であり、縁が深い。そのなかで、大願寺で修行した後上京して建仁寺霊源院で正宗龍統に学び、文明三年（一四七一）建仁寺首座から大願寺住持となった後、再び上京、建仁寺住持も務め、同一八年大願寺に退隠した考叔宗穎という僧がいる（玉村竹二『五山禅僧伝記集成』および『五山文学新集』五所収天隠龍沢『黙雲藁』一一四〇～四一頁等参照）。このような人物の存在は、末尾に大願寺関係の記述を付されることと強い関わりがあろう。

9 国立公文書館内閣文庫蔵本（内編）＊

〔江戸初期〕写。一冊。全一二六八首。林羅山旧蔵。部門別の慶との作品数対照は先に示したとおりで、全体の収録作品は

一〇首少ないが、**慶**にあって本書にない作品が一六首、逆に本書にあって**慶**にない作品が516・517・811・843・860・1096の六首ある。ただしこの六首のうち843は**蓬**に、860は**龍編**に、1096は**龍編**・**蓬**にも存するので、本書の独自増補ではなく、慶の誤脱であるかもしれない。

いずれにせよ、『新選集』の諸本間の差異に比べると近似性が高い。『新編集』に関してはこの二本に基づき原型を推定できるであろう。

10無窮会図書館天淵文庫蔵本（天編）

續新編分類諸家詩集　和　大　一冊〔近代〕写　第九門一八七一（4と同番号）

表紙天と同じ、二六・九×一九・三、外題題簽天と同じ、墨書「新編分類諸家詩集」。

前遊紙一丁、ただしウラに朱筆にて部門名を記す。巻首「續新編分類諸家詩集／　天文／見説楼臺……」。無界無辺一四行二一字、詩本文のあと隔二格にて題、行末より高四格にて作者を記す。本文九三丁、尾題「續新編分類諸家詩集終」、改丁して宝徳元年九淵龍琛の跋文二丁および後遊紙一丁あり。

朱の訂正を全体に施すことは**天**に同じ。さらに鉛筆による注記や貼り紙もある。また、第九・一〇丁の間に、版心「内務省」名入り四〇〇字詰海松色原稿用紙を用いて誤脱した三首を朱書したものを挿入、第九三丁袋には「昌平坂学問所」「淺草文庫」印記摸写および『新選集』『新編集』両書からの作品抜き書きの紙片を挿入する。

印記も**天**に同じ。ただし本書は目録がないため目首の印記はなく、また「臨池堂叢書稿本卅五」となっている点が異なる。

11前田育徳会尊経閣文庫蔵本（尊編）＊

大正七年（一九一八）写。二冊。**内編**を写した旨の奥書（永山近彰）がある。

改編本系統

12龍谷大学図書館蔵本（龍編）＊

天文九年（一五四〇）写。一冊。全四九七首。寧波の嘉賓堂において書写したとの奥書がある。2とともに料紙は竹紙であるので、現地で入手した紙を用いて、日本から持参した書物を転写したものと思われる。作品数は原撰本に比べて半分以下に

なっている。配列も部門内では作者ごとにまとめるなど、大幅に変更している。

三、『新選集』・『新編集』揉合改編本

『新選集』『新編集』を合体させて利便性を増そうというのはいかにも考えつきそうなことで、**成**が不完全ながらそうであった。次に挙げる伝本は、それのみならず、さらに韻別に再編成しているもので、このような例は今のところこの一本のみである。

詩会で韻を指定されて詠作を行う場合、贈られた詩に次韻する場合、あるいは聯句など特定の韻を含む語彙が必要になる場合など、表現や語彙を韻から探すことは、創作の現場において珍しいことではなかったであろう。中国製、日本製を問わず、類書にも韻別編成のものが多く見られることは、その利便性を証明している。(2)

13名古屋市蓬左文庫蔵本＊

〔室町後期〕写。一一冊。全二三八九首（ただし「その三」で示したとおり、七首重複、実質二三八二首）。上平声一五・下平声一五・仄声の計三一部門に分かち、同一韻内では『新選集』における出現順に並べ、ついで天文・節序等同じ部門の『新編集』収録作品を『新選集』所収作品の後に挿入している。誤脱や重複が見られるが、改編に使用した本は両書とも原撰本系統と見られ、成立時の所収作品の確定や本文校訂を行う上で重要な伝本である。

本書には多様な書入がある。（ここでいう同筆とは、本文書写と同時に書写者あるいは監督者によって書き入れられたと見られる、という意味。本書は寄合書なので、厳密な意味での同筆ではない場合がある。また、後筆とは、時代を隔てて、おそらくは尾張徳川家収蔵後に書き入れられた、という意味で用いる）

＊の句点・朱引・批点（他に押韻字には字の中央に圏点あり）、墨の返点・送仮名・竪点……ほぼ全体にわたって施す。おおよそ本文と同時、ただし朱の批点は後筆か。

＊異文、もとの部門名、増補であることを示す等の注記……同筆。このなかで、増補であることを示す「増入」「新添」の語があるのは852・853・854・1075・1076・1330（1037も出典を示しているのでこれに準じるか）のみである（ただし854と1330は**慶**にあ

る）。「その三」では蓬のみに存する作品を三〇首挙げたが、以上の六ないし七首以外の作品は、本書の親本までの段階で挿入されていたことになる。

＊内容に関する注記……語句の出典など、漢籍を引用する。同筆。

＊行末の数字……本書は**両**・**龍**等と同様、作品本文の後に隔二格にて題、行末高六格にて作者を記すという形式を取るが、その作品本文一行目の下欄に漢数字が記されているものがある。これらは『錦繡段』の作品番号で、本書と『錦繡段』の関係を示したものである。同筆。

＊文字の訂正……直接の上書または貼り紙による上書によって、中世五山特有の異体字や崩し字を正字体や楷書体に書き換える。後筆で、墨の定着が悪かったものか、滲みや流れが起きている（裏打ち補修時か）。このような書入は、それらの字体が通用しなくなった（あるいは雅正ならざるものとして忌避されるようになった）時代の変化を示すものである。後筆。

＊語句の抄出及び評注……注目すべき表現を上欄に抜き書きする。さらには、何らかのコメントを書き入れる。多くは本文に批点を付した上で行われている。一部、難解な語句に注を付すものもある。後筆。

以下に注目すべき書入を掲げる。料紙の破損等で文字が欠けている部分は□または［　］で示す。検索の便のため、**両**または**慶**の番号を（　）内に示す。

〔本文と同筆と見られるもの〕

第一冊前遊紙ウラ「東皐集詠日本扇／倭風一握渡南溟、最使公卿入内庭、機軸幹旋□□眼、丹青熠燿鳳凰翎／畳成棕葉金為骨、展処車輪半露形、更想退朝花裡散、徒（マヽ）如撩乱流（マヽ）蛍」

816 右肩「四首落候末ニ有」（書き落とした四首は灰韻の末855～858のこと）

852・853 作者名下「増入」

854（慶322）題下「方輿四」作者名下「同」

877（両217）上欄「漢賈誼伝、斥候望烽燧不得臥注、□穎曰、有寇即□然挙之以相告曰烽、又多積薪寇至即然之以望其煙曰燧、張晏曰、□挙烽夜［　］師古曰、［　］燧夜則挙烽」

1037 題下「詩格第二アリ」

1075 上欄「新添」作者名下「唐三百家絶句詩選巻之四」

1076 上欄「同」次行「右植華平於春圃、文選東京賦、瑞木也、天下平其華亦平、有不平処其華向其方傾」

元韻冒頭（1084を書入、その右に）「末詩也落詩書之」

1330 （慶1059）作者名下「増入」

1681 （慶86）上欄「杜詩心清聞妙香」題下「吟鑒作閉戸」

1733 （慶599）上欄「韻府三農生九谷礼天官、山農沢ー平地ー云」

1753 （両503）上欄「勝覧十四、建康府□也、弋陽館、載北□、又十八、信州云々、改葛陽爲弋陽、□肩吾訪古詩、行□葛渓水不見葛□人空抛青竹枝□作葛陂神、云々」作者名下「才子伝六字承吉南陽人、来寓姑蘇云々」

2054 紙端「金薤　平成千万篇ーー垂琳琅　韓詠李杜文章　金薤薤葉書也琳琅石似珠言李杜文章播於金石」

2105 （慶565）上欄「楊誠斎万里清天元是水、一団白月已成氷」

2152 （両176）上欄「能字、乃呉人語音、能有幾許大也」

2285 （両907）上欄「中興江湖集」

侵韻冒頭（前丁ウラ末）に2293（両989）を記し、「増入」と注記。2293にあるのを見落として書き入れたものか。

〔後筆と見られるもの、記す位置の注記は略す〕

113 （慶213）「猩々染素燕々凌空之事薔薇ノ吟ニ用也」

120 （慶267）「蜻蜓詩□味奇」

124 （慶303）「独爾空嘶苜蓿ノ風　此ノ三四句□瘦馬［　］顕［　］」

138 （慶1001）「江叟吹笛図之詩可吟味云々」

141 （慶1026）「東坡海南烹茶図之詩能々可吟味之」

178 （慶1098）「榴花ヲ染茜客ト云事也」

186 （両849）「蚕蛾之詩希有々々」

188 「隔窓撩乱撲飛虫之句　夜雪之心妙々」

197 （慶1178）「尊前月　可記々々」

216 （慶91）「解青菰粽ハコモチマキヲ解テ用ト云事也　重五トハ［　］」

253 （慶434）「杜工部草堂詩比春秋史注云々此詩着意看之云々」

267 （慶555）「輝書記腹裏無禅却有レ詩被叢林笑劉後村此詩希有々々」

269 （慶602）「錦襠叢裏闘腰支トハ傀儡ヲ云也」

282 （慶786）「羸馬嚙枯萁　着眼看之」

317 （両653）「熾炭　私云ヲコシスミ也」

333 （両721）「十月海棠　希有々々」

337 （両755）「此詩一段奇味深希有々々」

340 （両764）「水仙花ノ詩奇味可吟」

368 （両821）「食蜆之詩希有々々」

435 （慶49）「網住桃花希有々々」

480（両559）「此詩全篇此碁局」
481（両564）「三四ノ句希有々々」
533（慶1134）「款　欵同　叩同　古人詩云西蜀東呉欵々帰　私云、款ハ寒韻ノ去声」
593（両1119）「三四之句直如今見之」
594（両1130）「三四之句直如見之」
606（両310）「種菜英雄事、吟味奇也」
610（慶82）「緑荷擎雨看跳珠［　］句可［　］」
654（慶230）「膽瓶秋水可着眼」
668（慶1218）「辟蝗符希有々々」
680（両314）「黶、説文小黒子、从黒殹、醫曰黒也」
683（慶646）「楓樹郭公啼　希有々々」
785（慶816）「二ノ句猩紅千点海棠開、希有々々　海棠ノ猩ト可仕歟」
794（慶1080）「新醅ノ二字ハ新酒ノ心也」
810（慶166）「海沈ハ香也［　］梅［　］々々」
815（両825）「ーーノ二字ハ舟軍也雁陣ノ二字ニ当也」
839（慶1277）「撥ハ除也」
1116（慶289）「蛛比不動尊希有々々」
1215（慶1064）「金狨不審」
1222（両701）「膽瓶斜挿小品寒之一句希有々々」
1469（両291）「策蹇南遊希有々々」「紀南駅希有々々」
1541「団扇比荷葉」
1564（慶153）「溝如瓜蔓路似大牙」
1636（両859）「帷ハ帷帳也、此ニハ云蚊帳也」
1880（慶96）「籧篨ハ竹席也」
1970（慶1048）「風鉄ハ私云風鈴也」
1973（両658）「四ノ句気味可愛」
1976（両676）「四ノ句気味可愛、特侯鯖ノ二字ヲヤ」
1995（慶294）「蟹之詩、気味希有」
2262（両605）「石城之二字此国村名也」
2263（慶907）「私云此詩ハ回文之体也能々着心可見之」

四、『錦繡段』との関係

天隠龍沢編『錦繡段』（原撰本三二八首、流布本三三一首）は『新選集』『新編集』の両書から、主として『新選集』の部門を踏襲し、原則としてそれぞれの部門内に『新選集』『新編集』

の順に、該当作品を順に配置したものである。『錦繡段』は『新編集』成立からおよそ四〇年後の成立であり（拙著参照）、その内容から両書成立当時の姿が反映されていると予想される。そこで、『錦繡段』所収作品について、両書諸伝本内の収録状況を検討してみたい。全体の内容は表にして末尾に掲げた。（配列は東洋文庫所蔵伝天隠自筆本に基づき、そこに流布本で増補された三首を補い、誤写等は適宜訂正した。ただし『新選集』『新編集』と題・作者が大きく異なる場合は、（　）内に両書の表記を記した）

部門ごとの全体の配列は、おおよそ『新選集』『新編集』の順になっているが、地理のみ『新編集』が前にある。これは、『新選集』地理部門がわずか四首で、しかも一般的な名称のもののみであるため、中国の地名を題に含む『新編集』所収作品を前に置いたのではなかろうか。他に天文の1、懐古付題詠の91のように一首のみ配列が異なるものがあるが、これらは内容から考えてふさわしい場所に配置したと見られよう。

次に『新選集』から採録された一九九首について見てみよう。

収録数については、**両**は三首、**龍**は二首、**内**は六首を欠くが**彰**は欠落がない。

配列にはいくつか乱れがある。13・14について**両**が逆になっている。同題の連続する部分で二首目を見落とし、すぐに気づいて写したためであろうか。42については全伝本乱れているが、これは流布本における増補の時、挿入箇所を間違えたのであろう。89は**内**のみ大きく異なり、当該部門の終わり近くにある。本来の位置は、『新選集』では「子陵釣台」という同題の詩が連続する部分なので、意図的かどうかは不明ながら、書き落としたものを部門末尾に加えたのであろう（**内**はこの場所でほかにも独自増補を行っている）。288は**両**のみ当該部門終わり近くにある。これも89の**内**と同様、何らかの理由で書き落としたものを加えたか。雑賦部分の彰・成は大幅に乱れている。やはり乱丁等の事故がどこかの段階で起こったものであろう。

『錦繡段』との関係で見る限り、**両**・**内**・**龍**三本はそれぞれ瑕疵はあるものの、相互に補い合えば成立当時の姿を想像できる。さらに**彰**は、増補本であり、書写年代は下るものの、雑賦部分を除けば、その内部に原型をきちんと保存していることがわかるので、さきの三本と同様重視すべき伝本である。

なお、先に検討した**内**・**両**の配列の乱れア～エのうちイは**両**の誤りと推定したが、『錦繡段』は**両**に一致する。これが成立

時の姿だった可能性もあるか。

一方、『新編集』からの採録一三二首について、収録数は、**慶**は全て収め、**内**が一首欠くのみである。『新選集』に比べて異同が少ないのは、むしろさまざまに手を加えるほど広く読まれていなかったという可能性もあろう。手を加える場合は**龍**や**成**のような大胆な節略が行われてしまうのである。

配列については、『錦繡段』との部門の差異もあって、『新選集』からの作品よりも複雑な様相を呈している（もとの部門名と異なる場合は（　）内に注記した）。

まず天文の冒頭一首のことは先述した。地理で22のみ乱れているのは42同様増補部分であるためであろう（37も増補だがこれはたまたま順序通り）。同部門、末尾34～37にふたたび『新編集』所収作品が並ぶのは、仙道・居室という『錦繡段』にはない部門から採ったため別扱いだったのであろう。

懐古付題詠は配列が大きく異なる。これはむしろ『錦繡段』において時代順に配列を整えるという意図が明確で、逆に『新編集』の同部門が未整理であることを明らかにしている。なおここも儒学部門を末尾に補っていて、この内部は順序通りである。232は『新選集』の一部伝本にも収めるが、位置からすると『新編集』からの採録か。ただしこの一首のみ器用部門内では順序が乱れている。

画図についても懐古付題詠と同様、画題または画者の時代順に並べ替えている様子が見て取れる。最後の雑賦には末尾に人事部門から補っている。

全体に**慶**・**内**は『錦繡段』との比較で見ても、成立当時の姿をよく伝えるものと言えよう。

おわりに

伝本間の異同および『錦繡段』との比較を通じて、その共通部分をおおよそ原型（成立当時の姿）と推定できた。しかし、拙著でも述べたことであるが、それのみが『新選集』『新編集』なのではなく、使用者（読者・書写者）の利便性に応じて収録作品が増減したり、配列が変えられたり、あるいは両書が合体したり、といった変化が継続していく、その過程が刻み込まれた諸伝本の総体こそが『新選集』『新編集』なのである。

まだ、『続錦繡段』との関係や、両書自体の出典追究という大きな問題がまだ残っていて、それらの作業を通じて五山禅林

における中国詩の受容の輪郭がはっきりしてくるであろうが、ひとまずここまでのところで本稿を閉じたい。

〔注〕

（1）藤實久美子「書物師」（横田冬彦編『芸能・文化の世界』シリーズ近世の身分的周縁2、吉川弘文館、二〇〇〇）。

（2）内容は五山詩ではあるが『翰林五鳳集』は宮内庁書陵部蔵本と、近年市場に出現した神田家（香巌・喜一郎・信夫）旧蔵本の二本が韻別の再編成本である。

『錦繡段』作品一覧（新選集・新編集対応表）

部門	錦	題	作者	両	龍	内	彰	成	慶	内編	龍編	蓬
天文	1	春月	呂中孚						2	2		1668
	2	京城翫月	盧登甫	3	3	3	3					1142
	3	月	袁郊	4	4	4	4					1298
	4	聽雨戯作	陸務観	9	9	9	15					1865
	5	又	同	10	10	10	16					199
	6	夏雨	孟叔異	11	11	11	18					1457
	7	中秋雨	張子龍	12	12	12	21					1299
	8	雨意	鄭清之	20	19	20	32					430
	9	天陰	趙仁甫	22	20	21	33					1143
	10	雷	韓致元	23	21	22	34					160
	11	江霧	蕭則陽	25	23	24	36					3
	12	春雪	僧季潭	27	25	26	39					1867
	13	又	同	29	26	27	40					1525
	14	夜雪	宋壺山	28	27	28	41					200
	15	五星	謝畳山						3	3	8	859
	16	清明雨	頃庚老						4	4	4	1109
	17	秋雨	釈賛寧						8	8		431
	18	江雨	陸亀蒙						9	9	11	1869
	19	晴	潘柴巌						11	11		201
	20	浮雲	羅隠						15	15		1676
	21	雪望	趙閑々						24	24		1148
（増補）	22	霧	白玉蟾						18	18	9	2055
地理	23	廬山双剣峯	来鵠						128	121		1265
	24	江郎山	周雲叟						132	125		736
	25	呉興	林子中						133	126		1884
	26	三山即事	韓渥						134	127	64	737
	27	太行山	范至能						135	128	65	2141
	28	廬山瀑布	顧謹中						139	132	69	1885
	29	暁井	李郢						141	134	80	1886
	30	汴梁士人（下略）	顧謹中						144	137	103	162
	31	方池	銭昭度	132	125	128	147					219
	32	盆池	陳去非	133	126	129	148					730
（寺観付居室）	33	松棚	陳元信	159	149	155	174					1883
（仙道）	34	春題華陽観	白居易						528	518	73	1731
（居室）	35	時習斎	宇文虚中						334	325	93	22
（居室）	36	野堂	王子端						351	342		1271
（居室）（増補）	37	李氏友雲楼	王敏夫						352	343		1272
節序	38	立春	蕭千巌	39	37	37	55					1870
	39	寒食	孟雲卿	46	42	43	63					203
	40	寒食野望	僧聖徒	48	44	45	65					864
	41	春日作	龍麟洲	63	57	60	79					1546
（増補）	42	又	寇平仲	52	48	48	69					204
	43	又	開仲見	65	59	62	81					
	44	又	僧法振	68	62	65	84					1152
	45	又	張公庠	71	65	68	87					6
	46	又	方巨山	73	67	70	89					1153
	47	又	陳元信	78	72	75	94					8
	48	春夜作	王安石	84	78	81	100					1154
	49	又	陳蔵一	86	80	83	102					1681
	50	春暁	劉声伯	87	81	84	103					9

部門	錦	題	作者	両	龍	内	彰	成	慶	内編	龍編	蓬
	51	夏日	黄晋卿	92	85	89	107					727
	52	暑夜	僧季潭	93	86	90	108					1682
	53	午熱	楊万里	95	88	92	110					609
	54	八月十四夜	孫明復	103	96	100	118					208
	55	中秋	成文幹	106	99	103	121					2133
	56	又	劉無競	107	100	104	122					1874
	57	又	張景安	108	101	105	123					1155
	58	晩秋	李南金	115	108	112	130					1568
	59	又	陳去非	120	113	117	135					1888
	60	冬至	方巨山	124	117	120	139					1703
	61	春日雑詠	陸務観						40	39	17	2387
	62	春遊	宋季任						49	48	22	435
	63	又	趙閑々						50	49		2134
	64	又	同						51	50		1553
	65	雨中	何得之						68	65	5	437
	66	新秋	釈祖可						96	93		1880
	67	秋登涔陽城	李群玉						102	99		1337
	68	重陽	文山						112	109	40	218
	69	冬日書事	馬定国						122			733
懐古付題詠	70	蒼頡台	汪遵	162	152	158	177					2097
	71	磻渓	温庭筠	166	156	162	181					446
	72	読騒	周衡之	170	160	166	199					1897
	73	范蠡	呂仲見	173	163	169	202					
	74	嘲范蠡	鄭獬	174	164	170	203					229
	75	読秦紀	元端本	182	172	178	211					230
	76	又	蕭獬	183	173	179	212					2090
	77	李斯	陳仲猷	186	176	182	215					543
	78	項羽	杜牧之	188	178	184	217					231
	79	進履橋	周衡之	193	183	189	222					1468
	80	四老廟	杜牧之	196	186	192	225					
	81	明妃曲	許忱甫	207	197	203	236					
	82	又	同（游希卿）	208	198	204	237					1571
	83	又	陳倜	217	207	213	246					877
	84	又	僧皎然	219	209	215	248					1079
	85	又	僧季潭	220	210	216	249					544
	86	揚雄	劉潜夫	224	214	220	253					618
	87	子陵釣台	戴復古	227	217	223	256					1304
	88	又	無名氏	234	224	230	263					1166
	89	又	成斎堂	237	227	309	266					2062
	90	又	沈甫斎	238	228	233	267					1167
	91	又	夾谷之奇						400	390	137	1273
	92	赤壁	龍麟洲	243	233	238	272					2378
	93	薊子訓	陸務観	246	236	241	275					1530
	94	張季鷹	杜晦之	249	239	244	278					239
	95	王導	蕭服之	251	241	246	280					1531
	96	謝霊運墓	黄子耕	257	247	252	286					30
	97	梁武帝	蕭服之	258	248	253	288					448
	98	陳后主祠	洪舜愈	260	250	255	304					1902
	99	台城	韋荘	263	253	258	307					676
	100	華清宮	崔魯	267	257	262	311					1169
	101	華清宮風流陣	趙漢宗	269	259	264	313					1903
	102	長安覧古	張芸叟	270	260	265	314					1306

部門	錦	題	作者	両	龍	内	彰	成	慶	内編	龍編	蓬
	103	読天宝遺事	陳仲猷	275	265	270	319					1715
	104	酔杜甫像	曾朝伯	278	268	273	326					1170
	105	李白	僧蔵叟	282	272	277	321					1717
	106	李白墓	盧疎斎	284	274	279	323					1042
	107	東坡	僧樵隠	294	284	289	338					2102
	108	詠史	洪舜愈	311	302	307	354					1031
	109	読隠逸伝	陸務観	312	303	308	355					1080
	110	感旧詩巻	白居易	313	304		293					621
	111	禹廟	陸務観						358	349		33
	112	過武丁廟	劉従益						480	469		2167
	113	始皇陵	羅隠						362	353	120	622
	114	長城	権徳輿						365	356	130	1497
	115	関下	崔融道						360	351	116	244
	116	商山廟	白居易						368	359	124	2160
	117	読四皓定恵帝事	顧謹中						379	370		1906
	118	歌風台	林寛						375	366		247
	119	又	張方平						376	367	143	248
	120	読淮陰伝（韓淮陰信）	李長源						469	458		1275
	121	淮陰廟	銭諫議						384	375		2306
	122	項羽廟	陸務観						395	385	135	37
	123	李陵	王希声						383	374	138	1118
	124	茂陵	何宗範						404	394		40
	125	梅福隠処	黄魯直						382	373	149	34
	126	魏文正	杜牧之						435	424		254
	127	驪山有感	李商隠						436	425	108	1723
	128	龍池	仝						437	426	109	2065
	129	又（華清宮）	高蟾						439	428	125	2165
	130	太寧馮道吟詩台	趙閑々						476	465		751
	131	過故県	李岫						449	438	159	1498
	132	鍾山	曾茶山						453	442		1172
（儒学）	133	読史	蔡正甫						483	472	144	455
（儒学）	134	読黄大史伝	鄭之徳						484	473	145	1914
（儒学）	135	論詩	元遺山						489	478	151	47
（儒学）	136	又	仝						491	480	153	1726
（儒学）	137	読易	陸務観						499	487		259
（儒学）	138	読唐人愁詩戯作	仝						500	488	169	753
（儒学）	139	又	仝						501	489		2168
（儒学）	140	冬初雑詠	陸務観						510	498		1034
（儒学）	141	読公孫伝	李道庭						517	505		901
（儒学）	142	題三蘇帖	仝（趙閑々）						525	513		264
人品	143	観舞女	施肩吾	326	317	325	369					270
	144	蚕婦	薛能	329	320	328	372					914
	145	漁父	葉唐卿	333	324	332	376					1362
（仙道）	146	仙興	葉介老						531	520	91	1176
（雑職）	147	公子行	雍陶						596	586	162	462
簡寄付贈答	148	寄令狐郎中	李商隠	343		343	387					554
	149	寄季潭	滕子載	350		363	394					59
	150	寒食寄京師諸弟	韋応物	355	330	368	399					2068
	151	寄諸弟	欧陽元功	358	333	345	402					274
	152	早入皇城贈王留守僕射	白居易	376	351	376	420					2315
	153	和蔡提幹	僧無文	391	365	390	434					1189
	154	見新竹懐兄姚江村	釈円至						643	633		767

部門	錦	題	作者	両	龍	内	彰	成	慶	内編	龍編	蓬
	155	寄達兼善	李五峯						650	640		1122
	156	懐郭安道	周景遠						681	670		1738
	157	和郭安道治書韻	周馳						685	674		1540
尋訪付会合	158	雪夜訪僧	元唐卿	396	370	396	440					1589
	159	友人見訪不遇	黄子蕭	401	374	399	443					2049
	160	迎陽先生	僧無文	404	377		446					1310
	161	塗居士見訪	釈円至						703	692	214	929
送別	162	送温台	朱長通	414	386	410	456					297
	163	別李寄閑	僧実存	432	402	426	472					72
	164	暮春滻水送別	韓成村	437	407	431	477					1940
	165	送別	左緯	440	409	434	480					1375
	166	惜別	趙茂之母	442	410	436	482					2109
	167	別魯直於江夏	潘大臨						722	711	222	2197
	168	送魯子元江西省宣使	張万里						727	716	224	2199
	169	将赴平陽諸公祖席	高子文						737	726		1284
	170	贈別	釈祖可						740	729		
	171	留別楊将軍	韓子蒼						741	730		1196
行旅	172	再到楓橋	張継	450	415	441	488					171
	173	度梅関	伯顔	469	421	458	505					303
	174	謫会昌	滕玉霄	470	422	459	506					1377
	175	過呉江	李雲岩	473	425	462	509					75
	176	入石灘	黄処約	474	426	463	510					1200
	177	客中春日	張君量	478	429	467	514					2069
	178	暁行	晁叔甫	480	431	469	516					564
	179	帰舟	甘東渓	490	449	477	524					
	180	自笑	徐淵子	494	453	481	528					1946
	181	寄帰	僧聖徒	496	454	483	530					1596
	182	隴西行	陳陶	499	457	486	533					908
	183	十三山下村路	蔡正甫						764	753	248	1286
	184	渡端州峡	范徳機						774	763	253	2205
	185	登沓磊駅楼自此渡海	同						775	764		1601
	186	瓊州出郭	同						776	765		1126
	187	嘉陵駅	武元衡						779	768		1382
	188	去滁用醉翁韻	唐欽叟						792	781		1951
	189	韓陵道中	王子端						799	788		1288
遊覧	190	望淮	胡伯雨	512	470	501	547					2072
	191	過洞庭	唐温如	514	472	503	549					
	192	晩宿小羅田	楊廷秀	521	479	510	556					
	193	楓橋夜泊	孫元実	524	482	513	559					2210
	194	郊外即事	僧橘洲	541	499	529	576					1087
	195	山行	戴復古	542	500	530	577					1607
	196	田家	鄭毅夫	545	503	533	580					1089
	197	雪渓	蔡堅老	551	509	539	586					284
	198	春行寄興	姚雪篷	553	511	541	589					2320
	199	即興	趙子昂	564	522	552	599					481
	200	春日渓上作時帰自大梁	徐師川						831	821		173
	201	暮帰	趙周臣						856	847		1129
閨情	202	宮怨	劉嫒	575	535	568	611					1762
	203	閨怨	葉苔磯	579	538		615					290
	204	宮詞	李商隠	580	539	572	616					291
	205	長門怨	崔道融	586	545	578	622					941
	206	贈遠	薛濤	596	555	588	632					2261

部門	錦	題	作者	両	龍	内	彰	成	慶	内編	龍編	蓬
	207	春女怨	朱絳	599	558	591	635					305
	208	惆悵詞	王之漁	604	563	596	640					90
	209	采蓮	陸務観	605	564	597	641					2262
	210	燕子楼	白居易	614	573	606	650					1767
	211	妓	劉潜夫						895	887	299	
	212	宮中詞	馬逢						871	863		
	213	寄衣曲	厳仁						893	885	297	176
	214	又	同						894	886	298	491
	215	憶得	范徳機						896	888		309
哀傷	216	吊辺人	楊仲弘	620	579	613	657					492
	217	過桃花寺懐東叟	僧無文	621	580	614	658					
	218	失子	周徳卿						932	924		954
器用	219	筆陣	羅永年	626	585	619	663					1968
	220	退筆	林和靖	627	586	620	664					1046
	221	無絃琴	申屠致遠	632	591	625	669					2372
	222	辺上聴胡笳	杜牧	635	594	628	672					1389
	223	冬夜聴角声	陸務観	637	596	630	674					1047
	224	鞭	伯顔	640	599	633	677					494
	225	花上金鈴	蕭氷崖	641	601	635	691					792
	226	遊仙枕	蕭服之	642	602	636	679					648
	227	漁舟	宋器之	646	606	640	683					1776
	228	木犀花数珠	洪舜愈	647	607	641	684					1777
	229	酔道士弾琴	范叔範						1042	1033	328	649
	230	圧書石魚	邵清甫						1052	1043	332	570
	231	銅雀瓦	劉静脩						1053	1044		1391
	232	邠王小管	張佑			649			1036	1027	312	318
食服	233	糖霜	楊万里	658	617	654	695					1973
	234	酒	林和靖	659	618	655	696					2268
	235	楊妃韈	曾原一	666	625	663	704					793
草木	236	梅	鄭碩		635	672	713					325
	237	仝	鄭大東子	680	639	676	717	11				1624
	238	仝	陸務観	682	641		719	13				102
	239	仝	同	683	642	678	720	14				2272
	240	籬梅	胡徳昭	700	658	693	736	29				973
	241	雪後開窓看梅	丁直卿	710	668	702	748	41				1625
	242	九月梨花	韓準	715	673	707	753	51				499
	243	青梅	李益（白玉蟾）	730	688	722	769	69				976
	244	敗荷	黄済（黄済可）	742	698	732	809	111				105
	245	槿花	李義山	750	706	742	818	121				1096
	246	茉莉	趙福元	754	710	746	822	125				1670
	247	五月菊	宋壺山	763	719	755	831	134				1790
	248	松	李誠之	765	721	757	834	138				1227
	249	笋	王元之	777	731	767	843	147				2338
	250	無笋	陳野雲	778	732	768	845	149				980
	251	柳	陳恭公	780	734	770	847	154				981
	252	同	李憶		737	773	849	156				346
	253	同	皇甫冉		738	774	853	160				982
	254	北枝梅開已久（下略）	陸務観						165	158	367	809
	255	梅影	曹元象					46	168	161	372	1268
	256	海棠	王曜軒					61	180	188		350
	257	哭花	史景陽（韓偓）						195	172		354
	258	惜花	陳秋岡						196	173		1798

部門	錦	題	作者	両	龍	内	彰	成	慶	内編	龍編	蓬
	259	落花	釈賛寧					184	198	175	373	111
	260	二月看花	蔡俊伯						199	176	377	1980
	261	柳	劉之昂						207	199		357
	262	楊花	高子文					167	212	204	385	1800
	263	山石榴	杜牧之						222	214		1269
	264	白芙蓉	陸務観(陸亀蒙)						224	216	360	1514
	265	凝露堂木犀	楊廷秀						232	224	389	114
	266	山茶	朱元晦						241	233	379	117
	267	題端正樹	温庭筠					190	243	235		2278
	268	虞美人草	蕭徳藻						253	245	382	1806
鳥獣	269	聞鳥声有感	陸務観	791	750	786	874	200				1985
	270	鶯梭	劉后村	793	752	788	876	202				1986
	271	南海食蜆	彭復雅	821	780	853	963	312				368
	272	雁陣	劉后村	825	784	810	902	229				815
	273	翡翠	劉延世	833	792	818	913	247				510
	274	桃花馬	馬伯庸	841	800	826	930	268				843
	275	蛍	僧以仁	853	812	837	944	291				577
	276	蟬	徐山玉	854	813	838	945	292				2045
	277	同	李梅亭					321	297	289	411	1996
	278	聞鶯	虞伯生						299	291	397	372
	279	麝香	同（李公渡）						301	293		1814
画図	280	宋徽宗雪江独棹図	僧季潭	876	835		977	340				516
	281	題子卿牧羊図	李古渓	897	857	882	1004	367				817
	282	釣台図	僧橘洲	902	862	888	1010	373				658
	283	桃源図	僧樵隠	903	863	889	1011	374				997
	284	訪戴図	来子儀	907	867	892	1017	383				2285
	285	題明皇按舞図	沈弥年	910	870	893	1018	384				2002
	286	楊妃歯痛図	危逢吉	913	873	896	1021	387				2351
	287	題太白像	僧一初	915	875	898	1023	389				1240
	288	和靖索句図	葉介老	988	878	900	1026	392				1819
	289	和靖雪後看梅図	僧希叟	917	877	901	1027	393				380
	290	背面美人図	韓子蒼	930	890	913	1115	483				1821
	291	桃花馬図	詹同文	939	899	918	1041	324				998
	292	墨梅図	陳去非	952	911	929	1061	426				1519
	293	竹図	僧季潭	970	930	937	1084	452				2290
	294	題東坡墨竹	僧一初	974	934	941	1088	456				2009
	295	水仙図	楊仲弘	982	942	949	1096	464				1245
	296	墨菊	僧一初	984	944	950	1098	466				2244
	297	春浦帆帰図	孟攀鱗					521	993	985	453	821
	298	墨梅	劉仲尹						1033	1025		1134
	299	葛仙翁移居図	袁伯長					505	949	941	445	394
	300	習池酔帰図	馮叔献						1025	1016		2085
	301	淵明帰去来図	王居虚						1027	1019		2248
	302	明皇撃梧桐図	馮叔献						1024	1015		662
	303	明皇酔帰図	袁伯長					490	937	929	426	840
	304	少陵春遊図	程鉅夫					511	955	947		700
	305	東坡海南烹茶図	馮叔献						1026	1017		141
	306	米元章雲煙畳嶂図	劉静脩					526	998	990	450	1834
	307	文与可墨竹	顧謹中					554	972	964		135
	308	宣和画馬	程鉅夫					485	984	976	428	1293
	309	趙子昂並帯芙蓉図	顧謹中					551	969	961	462	1643
	310	楊補之墨梅	范徳機					540	964	956		1642

部門	錦	題	作者	両	龍	内	彰	成	慶	内編	龍編	蓬
	311	郭熙画木	虞伯生					548	981	973	459	
	312	宮女度曲図	袁伯長					530	1004	996	447	1835
	313	江叟吹笛図	顧謹中					529	1001	993	463	138
雑賦	314	与趙子期＿閣雑賦	虞伯生	994	952		1120	563				2385
	315	寇後過田家	彭復雅	1003	961	971	1227	671				
	316	客東湖	虞継之	1012	970	980	1236	680				
	317	建安遣興	陸務観	1022	980	990	1215	659				182
	318	鍾山	王安石	1024	982	991	1275	719				2252
	319	望山（望仙）	羅鄴	1028	986	995	1220	664				1323
	320	宮詞	秦少游	1030	988	997	1277	721				828
	321	題陳此山扇	貫酸斎	1045	1003	1010	1138	581				2363
	322	老去	丁直卿	1066	1024	1030	1171	615				1647
	323	吟窓	趙紫之	1071	1029	1035	1176	620				1102
	324	写懐	高駢	1076	1034	1040	1181	625				2220
	325	世事	劉元甫	1092	1049	1049	1145	588				1448
	326	僧舎晩帰	李潤甫	1135	1092	1090	1200	644				1654
	327	閑居雑興	陳嵩伯	1180	1137	1126	1291	734				595
	328	睡覚	李膺仲					801	1229	1220	484	1068
（人事）	329	書憂	陸務観						614	604		2178
（人事）	330	捫腹	仝						617	607	172	553
（人事）	331	夢断	劉岩老						623	613	486	183